

福井県医師会

だより

第693号 平成31年(2019)3月



蘇州名物 激浪魚

福井市 吉村 信

表紙写真説明：蘇州名物 激浪魚

福井市 吉村 信

年末、中国の文学者で料理研究者として高名な馬奕氏の招きで蘇州を訪れ、過食満腹ラーメン行脚の最後に、必殺メニュー激浪魚（淡水産フグ）、鮎肝（フグキモ）料理を無理矢理食わされたが、なんとか生き延びて帰国できた。中国ではフグを鮎又は河豚と書くが、河豚とは黄河を海から遡上する豚に似た魚という意味だとの事である。日本の河豚の語源を今回初めて知った。「激浪」とは、さかまく大波、怒涛の意味があるが、これは人間が毒に中って、のたうちまわる様子を意味するのか、群れ泳ぐ様子を示すのかは不明である。写真は、水槽の中を泡立てて群泳ぐ、日中両国で多くの食鬼（食い道楽）の命を奪った必殺仕掛け魚・激浪魚で、処刑の前に、切られ与三郎タイプなどの面々が不敵な面構えでガラス越しに我々を睨み付けている。蘇東坡に河豚の美味を愛でる右記の詩がある。

正是河豚の遡上欲んとする時。
これぞ 正是河豚の遡上欲んとする時。
よもぎ 蕪蒿は川辺に満ち、あし 蘆の芽は短し、
かみ 春の江水の暖むを鴨先ず知る。
かみ 見えれば、
ゆき 竹林に桃の花咲く枝、二三本

正是河豚欲上時
 蕪蒿满地蘆芽短
 春江暖鸭先知
 竹外桃花三两枝

春江晚景图

醫 縫 録

泌尿器科の最近の診療について

—福井県泌尿器科医会にて調査した男性性感染症でも梅毒が急増—

福井県泌尿器科医会会長 菅 田 敏 明



平成30年8月より福島克治前会長の後任として、福井県泌尿器科医会の会長に選任されました。福井県泌尿器科医会は、病院勤務医と開業医が約40人、福井大学が約15人の60人弱の会員からなる医会です。昭和62年、私が福井県泌尿器科医会へ入会した時は、南後千秋先生が会長をしておられ、その頃は県内の総合病院でも泌尿器科医は1～2名であり、月1回、相談したい症例を持ち寄って症例検討を行い、その後に楽しく親睦を行う同門会的雰囲気の会でした。平成10年頃に福島克治先生が会長を引き継がれ、月1回、症例検討会や講演会を催してスキルアップを行い、その後の懇親会において情報交換や親睦を深める会となりました。先輩会長を見習って、会員が福井県その他科の医会の先生方と協働して地域住民の健康と福祉を守ることに貢献しやすい泌尿器科医会を継続および発展していくように努力したいと思います。

泌尿器科患者といえば、男性では前立腺肥大症と前立腺癌、女性では過活動膀胱をまず考えられると思います。前立腺肥大症による排尿障害に対しては $\alpha 1$ 遮断薬や5 α 還元酵素阻害薬があり、手術が必要な患者さんはかなり減りました。夜間多尿による夜間頻尿に対しては治療に難渋しますが、一部の夜間頻尿にはPDE5阻害薬が有効なようです。前立腺癌の有無を検査するPSAに関しては、前立腺肥大症でもPSAが4.0を超える患者さんは多くみられます。PSA高値のみで前立腺生検を行っても前立腺癌の発見率は低いのですが、前立腺体積、PSA上昇速度、年齢階層、遊離型PSA、MRI検査などを総合判断して前立腺生検を行うと癌の発見率は上昇しますので、泌尿器科へ御紹介をお願いいたします。過活動膀胱に対しては、効果が強い数種類の抗コリン薬（内服剤、貼付剤）がありますが、口渇、便秘、排尿障害などの副作用がみられることがあり、残尿の増加には注意を要します。副作用が少ない $\beta 3$ 作動薬は使用しやすく、昨年12月から新しい $\beta 3$ 作動薬も使用できるようになりました。

泌尿器科の悪性腫瘍手術では前立腺癌および腎

癌が早くから腹腔鏡手術の保険適応が認められ、さらにはダヴィンチを使用したロボット補助下の腹腔鏡手術が前立腺癌に保険適応となり、さらに腎癌、膀胱癌に適応が拡大されてきました。進行性腎癌には有効な抗癌剤がありませんでしたが、平成20年から分子標的薬が使用可能となり、さらには平成28年から免疫チェックポイント阻害薬（ニボルマブ）が保険適応となり、膀胱癌に対しても平成29年に免疫チェックポイント阻害薬（ペムブロリズマブ）が保険適応となり、泌尿器科悪性腫瘍に対する治療が大きく変わりました。

福井県泌尿器科医会の各施設の御協力を得て、平成25年から29年の男性性感染症の受診症例数を毎年集計しました。5年間の男性性感染症の総数は3,115人であり、内訳は淋菌性尿道炎が597人（19%）、淋菌・クラミジアの混合感染が205人（7%）、クラミジア性尿道炎が1,206人（39%）、性器ヘルペスが576人（18%）、尖圭コンジローマが434人（14%）、その他の性感染症が97人（3%）でした。年度別の検討では、淋菌およびクラミジア性尿道炎の増加傾向はみられず、性器ヘルペスは微増であり、尖圭コンジローマは増加していました。その他の疾患のうち梅毒は、平成25年、26年は報告がなく、平成27年は6人、平成28年は10人、平成29年は15人と増加していました。福井県健康増進課からの福井県の男女を含めた梅毒の報告は平成26年までは年間2～3人でしたが、平成27年10人、平成28年は15人、平成29年は23人と報告されています。全国的にも梅毒は平成24年以前が1,000人以下であり、平成27年2,690人、平成28年4,575人、平成29年は5,820人と急増しているのが問題になっています。現在は都会での発生が多いのですが、今後、福井県においても急増する可能性があります。対応が必要と考えられます。